

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	3	大学等名	立正大学
テーマ	テーマ I アクティブ・ラーニング		

【総括評価】

B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

【コメント】

<優れている点>

- ・他多くの AP 事業の中で、「学生を中心に考えた大学改革」の核の一つである本大学の「AP 学生評価委員会」の創設は、日本の大学にとって非常に大きな意味及び意義を持つものであり、波及効果が高まるような内容にまで落とし込み、他大学のモデルとなることを期待する。また、他大学のアクティブ・ラーニング (AL) 情報を学内教職員間で共有したことや、地方自治体との地域連携の強化も評価できる。

<改善を要する点>

- ・本大学の AL の目標は、学生自らの主体性・自律性を高めるものであるはずだが、フォーラム、セミナー、研究会の開催といった教職員対象の事業が主だったものとなり、取組に偏りが認められる。学生が授業の中でどのように AL に関わっているのかをより明確化するとともに、AL の実質的な取組を可視化することが必要である。
- ・平成 28 年度から、積極的に学んでいる学生に特化したヒアリングを実施しているということだが、やる気のない学生、他学生とコミュニケーションを取りにくい学生こそが、本プロジェクトを通して自立していく必要があることから、ヒアリング対象の学生を再考することが必要である。
- ・今回の選定されたテーマで、AL として最も効果があるべきはずの予習用動画がほとんど機能していないことは、本事業の今後の進展を考える上でも危惧される。ホームページの進捗状況も遅れており、3 年経った現在、具体的なものはニュースレターが 3 部のみでは不十分と考えられる。早期の対応を望むとともに、補助開始時期に入学した学生が残りの学士課程教育を充実したものとするためにも、早急に事業の展開を実施することが必要である。そのためには、学長のリーダーシップが不可欠であり、全学 AP 推進委員会と学部教育との連携を強化し、PDCA サイクルをより明確にしつつ、本取組を全学的に波及していただきたい。